

「沖縄の染と織の至宝－桃原用昇コレクション 八重山展－」開催に向けて

この度は、「沖縄の染と織の至宝－桃原用昇コレクション 八重山展－」にご来場いただき誠に有難うございます。今年7月、新垣幸子氏が人間国宝として認定されました。石垣市にとりまして大変名誉なことであり、石垣市民を代表して、心からお祝いを申し上げます。

5年前、桃原用昇氏の東京のご自宅を教育長らと訪問し、玉那覇有公氏、新垣幸子氏、鎌倉芳太郎氏を中心とした、八重山地方とつながりの深い染織作家たちの作品を中心に、長年収集してこられたコレクションを拝見する機会を得ました。一同心から感動し、ぜひ石垣市で展示会を開催し、多くの皆様に見てもらいたいと待ち望んでいました。

昨年、沖縄県立博物館・美術館で開催された、一般財団法人沖縄美ら島財団主催の企画展「沖縄の染と織の至宝－桃原用昇コレクション－」は、来場者数が7,000名を超え、多くの反響を呼びました。

そして、八重山展開催実現のため、一般財団法人沖縄美ら島財団の全面的なご支援をいただき共催出来ましたこと、厚くお礼申し上げます。

本展示会は、展示作品が昨年の87点からさらに規模を拡大し、114点になります。7名の人間国宝、石垣市初代名誉市民である型絵染の鎌倉芳太郎氏、同じく石垣名誉市民である紅型の玉那覇有公氏、首里の織物の宮平初子氏、読谷花織の與那嶺貞氏、芭蕉布の平良敏子氏、さらに昨年人間国宝に認定された首里の織物の祝嶺恭子氏、八重山上布の新垣幸子氏に加え、2名の県指定無形文化財保持者、紅型の城間榮喜氏、紅型の藤村玲子氏を含む9名の作品が一堂に展示されることは、沖縄県で初めての快挙です。

桃原用昇氏は、21年間に及び収集された119点の膨大なコレクションを、新石垣市立八重山博物館・美術館（仮称）の完成時には、石垣市へ寄贈し、これらの作品が沖縄の宝として、未来永劫散逸せずに保存され、活用されることを切望されておられます。新館が、現代沖縄の染と織の宝庫となるよう、引き続きコレクションを継続されるとのことです。現在石垣市は、「博物館建設準備室」を新設し、早期実現に向け懸命に取り組んでおります。

ご存じのように桃原用昇氏は、これまでも八重山の青少年育成のため、10年前、大学入学のための奨学育英基金を設立され、昨年4月には新たに、高校入学の奨学育英基金を設立されました。併せて八重山の小・中・高校へ毎年多くの図書をご寄贈され、八重山の人材育成にも多大な貢献をいただいております、幸甚の至りに存じます。

桃原用昇氏のご尽力により実現しました今回の展示会をとおして、八重山地方の織物が再認識され、新たに多くの染織作家が誕生することを切に望みます。ご来場の皆さまには、展示作品の魅力を存分にお楽しみいただければ幸いです。

結びに本展示会の開催にあたり、桃原用昇氏に重ねて深く感謝申し上げますとともに、一般財団法人沖縄美ら島財団はじめ、ご後援とご協力を賜りました皆様方に心より御礼申し上げます。

令和6年10月吉日
石垣市長 中山 義隆